

## 「金融危機とベイルアウト・ベイルイン」

中空麻奈

### 報告要旨

マーケットが安定し、金融機関のクレジットリスクも安定している昨今、ユーロゾブリン危機の報道もそれ程されなくなってきた。これは取りも直さず、LTRO や OMT といった ECB の施策による効果が大きいためであった。ファンダメンタルズを見ればユーロゾブリン危機はまだ継続していると見るべきにも関わらず、ひとまず小康状態になっているというのが正しい理解であろう。

ECB の施策が効いた結果、欧州金融機関のデフォルトリスクは著しく抑制されたと言えるだろう。しかし、こうした金融機関に対する様々な施策にも関わらず、キプロスでは預金封鎖という事態に陥った。最終的には大口預金者に対するヘアカットを求める形で収まったものの、混乱の当初は小口預金者にも部分的なヘアカットが要請される案が取り沙汰されたことにより、預金のシフトが起きるのではないかとの懸念が持ち上がるに至った。その後、小口預金者を完全に保護するという点、いわゆる“預金者保護”がクローズアップされることとなったわけである。すなわち小口預金者が多いほど、金融機関のクレジットリスクが高まってしまうというおかしなことが生じてきたわけだ。金融機関のクレジットを考える上で、重要な問題提起になったことを踏まえ、キプロスの預金封鎖についてレビューしておくこととする。

また、折からグローバルに金融規制が厳格化しようとする流れにある。その観点の中で重要なテーマの一つが“ベイルイン”である。この“ベイルイン”という考え方と“預金者保護”の両観点をどうバランスよく見ていけばよいのか、は、金融機関のクレジットを考える際の新しいテーマとも言えるであろう。ベイルインによって、金融市場への影響はどういったものが考えられるのか、市場関係者の観点で整理しておくことにしたい。